

生命いのちの言葉

平成二十八年九月

世の中におもひやれども
子を恋ふる 思ひにまさる
思ひなきかな

紀貫之

裏面もご覧ください。

生命いのちの言葉
九月

世の中には
様々な思いがあるけれど、
わが子を恋しく思う気持ちに
勝るものはない

『土佐日記』

紀貫之 (きのつらゆき)
貞観八年(八六六)〜天慶八年(九四五)。※諸説あり
平安時代の歌人で三十六歌仙の一人。延喜五年(九
〇五)に醍醐天皇の命により『古今和歌集』を編纂
し、仮名による序文を執筆した。『土佐日記』は
我が国初の日記文学で、後の仮名文学・随筆等に
大きな影響を与えた。

梨の実のなる季節、ご参拝の皆さまに実り多きことを祈ります

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>

神社は心のふるさと
未来に受け継ごう
「美しい国うらわぶり」